

「モズク品質管理の手引き」の作成支援

玉那覇 靖

1. 概 要

オキナワモズクは、1978年度に栽培技術が確立され、その翌年の1979年度から本格的に生産がはじまった。その後、順調に生産を伸ばし、1991年においては過去最高の1万3千トン達成し本県の漁業生産の約1/5を占める主要水産物として大きく成長している。

今後さらに消費拡大を図るためには、品質の高い製品を安定的に供給できる体制を整備する必要がある。特に、品質向上については、生産者側に負うところが大きく、生産者や漁協の品質管理に対する努力が強く求められている。

したがって、本年度は沖縄県漁連が中心となり、品質管理に関する調査及び情報の収集を行い「モズク品質管理の手引き」の作成を行った。

2. 方法及び結果

県漁連、県水産振興課、水産試験場及び水産業改良普及所で「モズク品質管理の手引き作成作業部会」を設置し、各々役割分担をして作成にあたった。

なお、詳細については沖縄県漁連、沖縄県農林水産部共著「モズク品質管理の手引き」—オキナワモズク編—を参照されたい。

3. 問題点と課題

加工業者等からの「モズク品質管理の手引き」の評価は非常に高く、その運用に期待が持たれている。特に同手引きは漁協内のモズク部会が一体となって取り組まないと成果が出てこないため、生産現場での説明会や部会の組織化が大きな問題となっている。